

令和3年5月31日

第540号

横浜市立日吉台小学校

玉置 恭美

教育目標

みずから生きる

ともに生きる 日吉台の子

ひよしだい



新しい時代の学び

副校長 澤 勉

先日、点検のために上った屋上で、霞の向こうに富士山を見ることができました。日吉台の丘から望むその姿は、やはり堂々として、何らかのパワーを伝えてくれるようです。私の高校時代の恩師である日本地図センター相談役の田代博先生によると、理論上では富士山が見えるエリアに住んでいる人は約4000万人、日本の人口の1/3にもなるそうです。今この瞬間にも、きっと様々な思いで富士山を見ている人がいるのかと思うと、やはり特別な山なのだなどと改めて認識します。

さて、今ではあっという間に行ける富士山ですが、前の東京オリンピックと同じ年に開通した東海道新幹線ができるまでは、東京から三島まで2時間以上かかっていたようです。リニアではそれこそあっという間に通り過ぎてしまうとのことですが、昭和に生まれた私にとっては、道行く人の表情が分かるくらいのスピードがちょうど良いようです。

令和の時代の子供も達の学習も、距離や時間を飛び越えて目の前の端末で体験することができるようになりました。国のGIGAスクール構想により、一人一台ずつのiPadが貸与され、高速Wi-Fiにより様々な情報を得るだけでなく、双方向でのやり取りがストレスなしにできる環境になったのです。例えば理科のモンシロチョウの観察では、それぞれの子供もがインターネット上の動画にアクセスし、一時停止、拡大をすれば体のつくりが分かります。再生スピードを速めれば、誕生から羽化までを授業時間内に見ることもできるのです。多くの素材から自分の必要なものを選び効率よく学ぶことが、これからの学習スタイルになっていくのかもしれませんが。

昨年度来、様々な学校で実施したオンライン授業についての検証も始まりました。立場により論調が違い、保護者や地域の皆様に不安を与えることもあるかもしれませんが、これからの社会を生きる子供もたちに必要なものは、能動的な学び方とそれを支えるコミュニケーション能力だと考えます。実体験や他者との対話、協働などの多様な学習機会を通して、子供も達はそれぞれの思いを自分事とします。さらに自分事とした思いを伝え合うことから、より実感を伴った学びをつくとともに、必要感で支えられたコミュニケーション能力も育まれます。

さて、本校の三年生も教室の前で、モンシロチョウを育てていました。毎日の学校生活の中で、餌になるキャベツが痛み始めた匂いに大騒ぎし、サナギも活発に動くことに目を丸くした子供も達は、授業中に始まった羽化の様子も様々な思いをもって見たことでしょう。モンシロチョウとの時間を濃密に過ごした子供も達は、通りがかりの私にも自分の学習内容を豊かな言葉で熱く語りました。きっと、家に帰ってからご家族に話をした子供も多かったと思います。

キラキラと光る思いをもった日吉台小の子供も達、その思いをしっかりと受け止めて、それぞれの学びを実現すべく、教職員一同これからも教育活動に取り組んでまいります。ご協力のほど、どうぞよろしく願いいたします。

ⁱ 内閣府では Society5.0 と名付けています。